

コシヒカリの適期刈取りについて

コシヒカリの出穂期が早かったものの、8月中旬頃の低温低日照の影響により、刈取適期は平年並みとなっています。ただし、出穂直後が高温多照だったことから、胴割米になり易い稲体になっています。今後の気象予報に留意しつつ、必ず籾の黄化状況を確認し、刈遅れによる胴割米の発生を防止しましょう。

1 水管理

- ・刈取りの5～7日前まで間断かん水を行い、稲体の活力維持と登熟向上に努めましょう。ただし、フェーンが予想される場合は、予め入水しましょう。

2 クサネム(雑草)の抜取り

- ・クサネムなどの雑草種子は、調製で取り除くことが困難であり、製品に混入すると農産物検査で格落ちの要因となるので、刈取り前に必ず抜取りましょう。

3 コシヒカリの刈取時期

- ・籾の黄化状況を確認し、黄化率85%で刈取りましょう。

【刈取適期の目安】

出穂期	刈取適期
7月29日	9月7日頃
8月1日	9月11日頃
8月4日	9月15日頃

- ・刈り遅れによる胴割米が発生しないよう、適期内に刈り終えましょう。

4 乾燥・玄米水分

- ・胴割米の発生を防ぐため、乾燥速度は毎時0.8%以下を基本としましょう。初期の籾水分が高い場合(25%以上)や低い場合(20%未満)は、二段乾燥の実施や送風温度を下げるなど、特に丁寧な乾燥を行いましょう。
- ・青米の混入程度により停止水分を設定しましょう。

【乾燥機停止水分の目安】

100粒中の青米粒数	0～5粒	6～10粒	11粒以上
乾燥機停止後の水分変化	乾く(-0.5%)	変わらない	もどる(+0.5%)

- ・玄米水分は14.5～15.0%に仕上げましょう。玄米水分が17%以下になったら、手動水分計でこまめに測定し、過乾燥米の発生を防止しましょう。



秋の農作業安全運動 8月20日～10月20日

詰まったワラを取除く時はエンジンを止める！
後進時には補助者による誘導や確認を心がける！